

ケヤマウコギ

Acanthopanax divaricatus

ウコギ科



ケヤマウコギ

名前の由来

ヤマウコギに似て毛深いことからついたという。「ヤマウコギ」は山地性のウコギの意。「ウコギ」は五加（漢語でウコギのこと）を漢読みでウコ、ギは木。別名、オニウコギ。漢字名：毛山五加木

形態的特徴

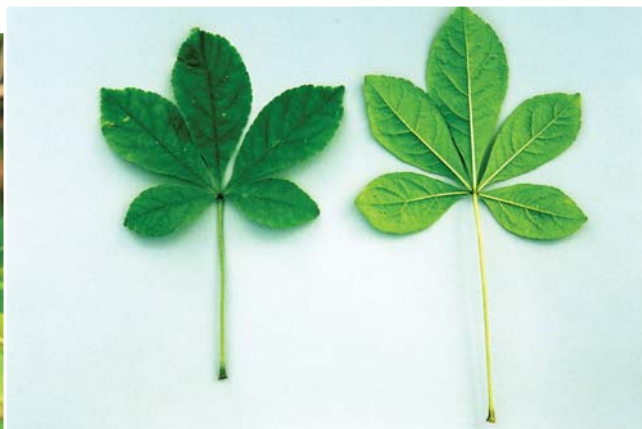
山地や原野に生える落葉樹、樹高3～5m、枝に幅広い刺状突起がある。雌雄同株。葉は掌状複葉、小葉は5、倒卵状長楕円形で長さ4～10cm、細重鋸歯縁、上面脈上と裏面有毛。花は帯緑白色で径5mm、5弁、径約4cmの球状につく、頂生の花序は両生花、他は雄花で小さい、8～9月に

開花。果実は球形で径約8mm、球状の房となる。9～10月に黒く熟す。

類似種との見分け方：エゾウコギの幹のトゲは細かく多いのに対し、ケヤマウコギの幹のトゲは大きく少ない。



ケヤマウコギの実。約8mmの実が球状につく



ケヤマウコギの葉。表面の葉脈と裏面に毛がある。手のひら形で、それぞれこれで1つの葉(掌状複葉)



ケヤマウコギの樹形。大きくはならない



ケヤマウコギの樹皮。灰褐色で滑らか



ケヤマウコギの冬芽。球～円錐形、2～4mm。枝にトゲあり



ケヤマウコギの若木の葉の付き方

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期					■							
結実期						■						

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

生育環境・分布

山地の林内や林縁。河畔林にも多い。

分布：国外分布は、朝鮮、中国北部（「北海道 樹木図鑑」。「日本の野生植物 木本Ⅱ」では中国中部）。国内分布は、北海道、本州、四国、九州。北海道内分布は、全域。十勝地方生育状況は、全域。

繁殖生態・寿命

8～9月に開花。果実は9～10月に成熟。鳥や動物によって種子分散する。寿命は不明。

他生物との関わり

不明。

植栽関係

実生、挿し木、取り木による。実生で植える場合は、果実を取りのぞきとりまきするか、翌春にまいて苗をつくる。挿し木は4月ごろ前年生の枝を15～20cmに切って挿す。

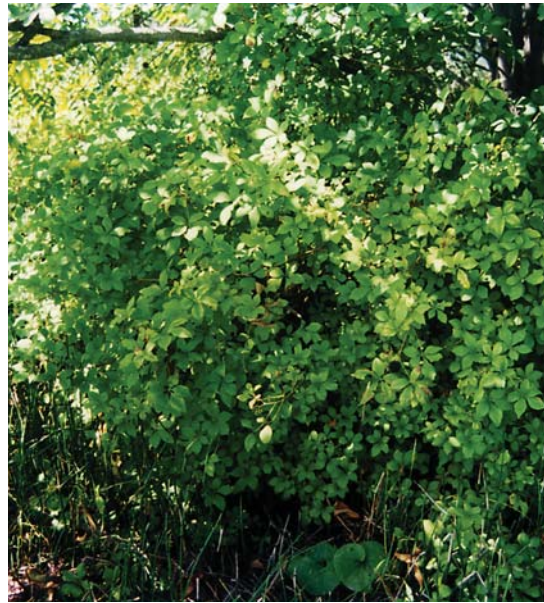
興味深い話

■新芽は香りがよくやや苦みがあり、山菜として食用にする。若芽は乾燥して茶の代用にする。根皮は五加皮（ごかひ）とよび、漢方では五加皮酒として滋養強壮に用いる。

■足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）のアイヌ語では、実を「シタシケルペ」、木全体を「シタシケルペニ」という。



ケヤマウコギの若芽



ケヤマウコギは林内や林縁で低木層を形成する



ケヤマウコギの若い木

配慮事項

挿し木が可能なので、葉のない時期に枝を切って挿すか、伐根した根を移植する。

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

参考文献

「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996 (ウコギで検索)

「北海道樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集 北隆館 1989

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 植物編・動物編」知里真志保、平凡社、1976